

東京駅丸の内駅舎保存・復原工事及び八重洲口開発第2期工事について

JR東日本では、首都東京の「顔」にふさわしい多彩な魅力と先進の機能をもった駅＝街「Tokyo Station City」として、東京駅周辺地区の都市空間整備を進めています。

この度、「Tokyo Station City」における最大の注目施設である東京駅丸の内駅舎の保存・復原^(※)工事については施設の開業予定時期等及び概要が、また、八重洲口開発の第2期工事については竣工予定時期が、それぞれ決定いたしましたのでお知らせいたします。

※「現存する建造物について、後世の修理で改造された部分を原型に戻す」の意で、当社は「復原」を用いております。

1. 東京駅丸の内駅舎保存・復原工事

国の重要文化財である東京駅丸の内駅舎については、2007年5月に工事着手して以来、駅の機能を維持しつつ、お客さまの安全を確保しながら保存・復原を行ってきました。完成後の駅舎は、快適性を併せ持つ歴史的建造物として、首都東京の風格ある都市空間の形成に貢献します。

- 復原後の駅舎は、既存の駅舎同様に、主に駅施設、ホテル、ステーションギャラリーとして使用します。
- 海外から訪れたお客さま向けにサービスを提供するJR EAST Travel Service Centerを設置します。
- ステーションギャラリーは、展示空間と合わせ設備面の整備を行い、重要文化財である丸の内駅舎を、これまで以上に身近に感じながら見学できる快適な展示施設とします。
- 駅舎内のホテルは、名称を「東京ステーションホテル」とし、重要文化財の中に存する強みを活かし日本を代表するセントラルステーションに相応しい、歴史と先進性が融合したホテルを目指します。

【開業予定時期等】

		時期
駅施設（一部）	開業	2012年6月
JR EAST Travel Service Center	開業	2012年10月1日(月)
東京ステーションギャラリー	開館	2012年10月1日(月)
東京ステーションホテル	開業	2012年10月3日(水)

※復原された駅舎の外観(南北ドーム・3階外壁・屋根等)は、2012年3月末にご覧いただけるようになります。

※外観ライトアップについては、2012年10月開始を予定しております。

2. 東京駅八重洲口開発第2期工事

東京駅八重洲エリアでは、第1期工事(グラントウキョウノースタワーⅠ期、グラントウキョウサウスタワー)は、2007年10月末に完成し、現在、第2期工事(グラントウキョウノースタワーⅡ期、中央部・グランルーフ)及び八重洲口駅前広場整備を進めています。

【竣工予定時期】

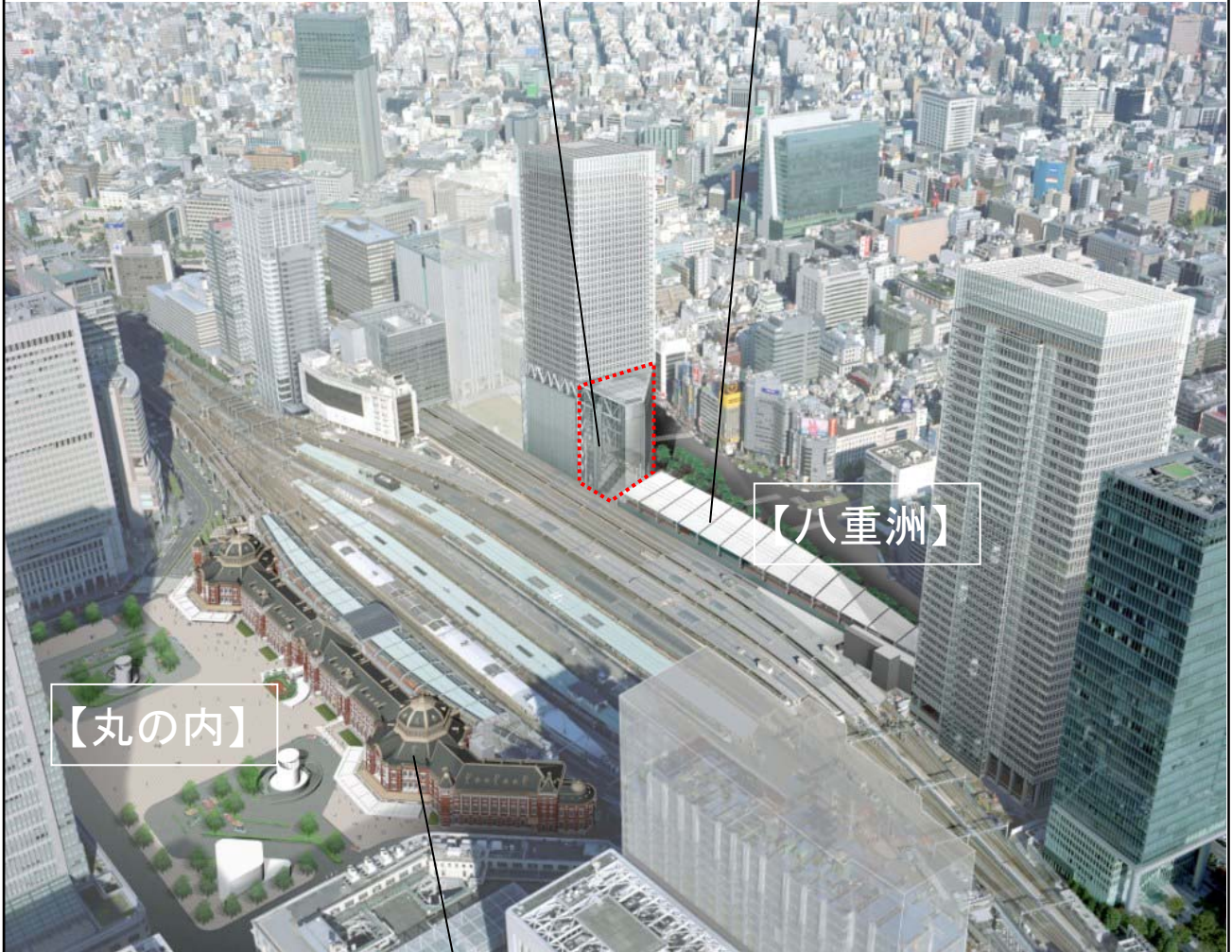
		時期
ノースタワーⅡ期(百貨店増床部) 竣工		2012年8月末
中央部・グランルーフ 竣工		2013年秋

※百貨店(大丸東京店)及び中央部の店舗開業時期については、別途お知らせいたします。

※八重洲口駅前広場については、2014年秋に竣工を予定しております。

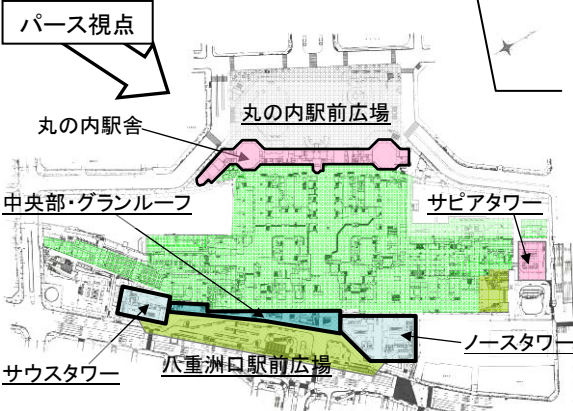
グラントウキョウ
ノースタワーⅡ期
2012年8月末竣工

中央部・グランルーフ
2013年秋竣工



【丸の内】

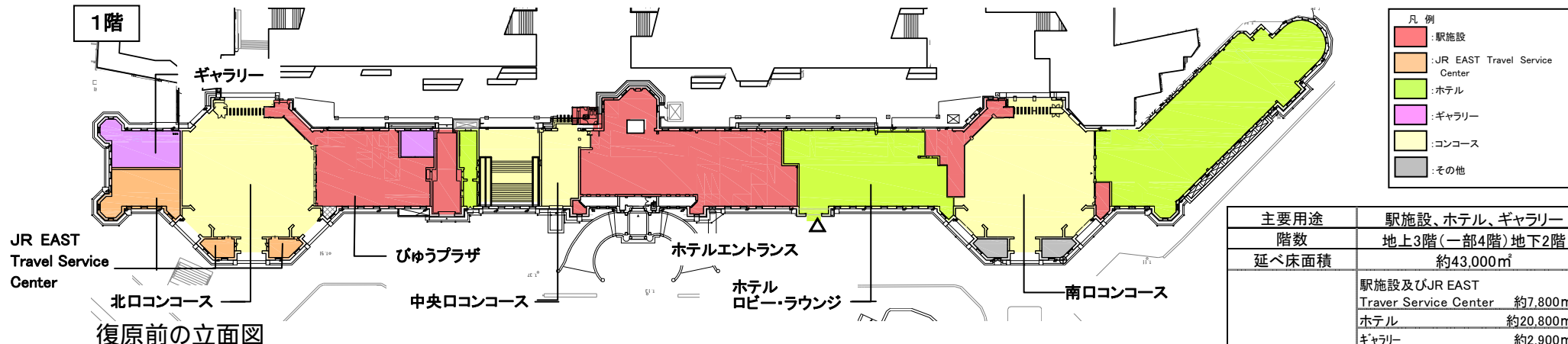
【八重洲】



- 東京駅丸の内駅舎
- ・2012年6月 駅施設(一部) 開業
 - ・2012年10月1日 JR EAST Travel Service Center 開業
 - ・2012年10月1日 東京ステーションギャラリー開館
 - ・2012年10月3日 東京ステーションホテル開業

注) パースは現時点での計画イメージであり、今後変更となる場合がございます。

復原後の1階平面図

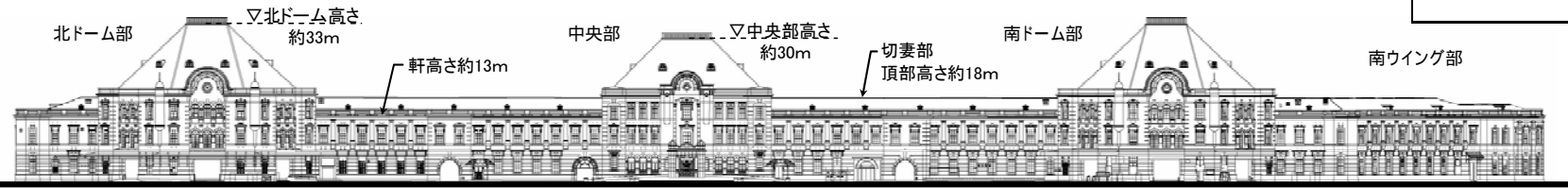


凡例

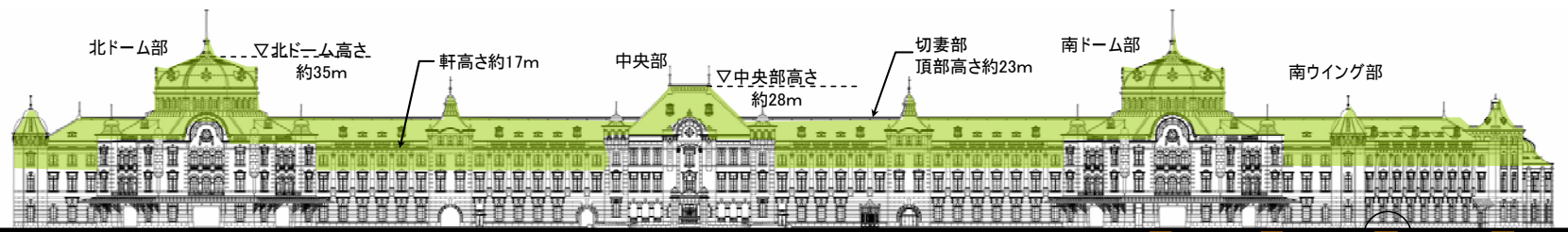
- 駅施設
- JR EAST Travel Service Center
- ホテル
- ギャラリー
- コンコース
- その他

主要用途	駅施設、ホテル、ギャラリー
階数	地上3階(一部4階)地下2階
延べ床面積	約43,000㎡
	駅施設及びJR EAST Travel Service Center 約7,800㎡
	ホテル 約20,800㎡
	ギャラリー 約2,900㎡
	駐車場 約3,600㎡
	設備室等 約7,900㎡

復原前の立面図

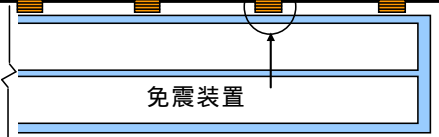


復原後の立面図



復原部分 (3階・屋根)
保存部分 (1階・2階)
新設部分 (地下1階・2階)

免震装置
地上部分と地下部分の間に免震ゴムとオイルダンパーを設置し、耐震性能を向上させています。



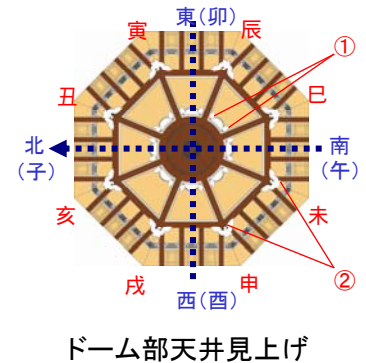
1. 東京駅丸の内駅舎保存・復原工事 駅舎外観・内観について

- 丸の内駅舎 3 階及び南北ドームを復原し、既存部分を可能な限り保存・活用します。
- 南北ドーム内の内観およびレリーフは、当時の写真・図面を基に、創建当時の姿に復原しています。



ドーム内観(北ドームイメージ)

ドーム内部の装飾デザインには日本のモチーフが多く用いられています。
設計者の辰野金吾も「装飾は日本趣味でやるように」と述べていました。
壁レリーフの色は、当時の文献にあった「色の調子は麗(ハレ)やか」「黄卵色の漆喰」といった記述や、創建時のモノクロ写真を検証し、決定しました。



①花飾りレリーフ(イメージ)

ドーム天井の中心飾りの周囲にある花飾りレリーフはクレマチス(鐵線花)の模様で、南北のドームにそれぞれ16ずつ配置されています。



②鷺型のレリーフ(イメージ)

ドーム天井の8ヶ所の角にある鷺のレリーフは両翼間の大きさが約2.1mにもなり、南北のドームにそれぞれ8ずつ配置されています。



③千支のレリーフ(イメージ)

ドーム壁レリーフの8ヶ所の角にある彫刻は千支のレリーフで、それぞれの千支が示す方位(北から時計回りに従って12支のうち丑(北北東)・寅(東北東)・辰(東南東)・巳(南南東)・未(南南西)・申(西南西)・戌(西北西)・亥(北北西)の8支が配置されています(東西南北を示す子(北)・卯(東)・午(南)・酉(西)の4支は描かれていません)。

- 屋根瓦の天然スレートは、東日本大震災の津波に耐えた国産スレートを可能な限り使用し、南北ドーム及び駅舎中央部の象徴的な位置に設置しています。



ドーム屋根(国産のスレートを使用)

丸の内復原駅舎ライトアップ(2012年10月開始予定)

- 開業に合わせ、照明デザイナー 面出 薫氏デザインによるライトアップを開始いたします。
- ライトアップに使用する照明器具は全てLEDとし、環境にやさしいライトアップを目指します。



外観(イメージ)



ライトアップ(イメージ)

※点灯時間は日没から21時までを予定しています。

JR EAST Travel Service Center概要

海外から日本を訪れたお客さま向けのサービスを一体的に提供する施設を目指し、「JR EAST Travel Service Center」を設置いたします。

- 名 称 「JR EAST Travel Service Center」
- 開業予定 2012年10月1日(月)
- 運営主体 JR東日本
- 施設概要 ・旅行カウンター(JR EAST PASSの引換えや乗車券類の手配)
・観光案内所
・外貨両替所、ATM
・手荷物関連サービス所



JR EAST Travel Service Center(イメージ)

東京ステーションギャラリー概要

「駅を単なる通過点でなく薫り高い文化の場として皆さまに提供したい」という願いをこめて、1988年に東京ステーションギャラリーが誕生しました。2006年から休館いたしておりましたが、今回の丸の内駅舎保存・復原工事を経て、さらに充実した内容を楽しんでいただけるようになります。

- 名 称 「東京ステーションギャラリー」
- コンセプト 「小さくとも本格的な美術館」
- 開館予定 2012年10月1日(月)
- 運営主体 公益財団法人 東日本鉄道文化財団(理事長 大塚 陸毅 JR東日本取締役会長)
- 施設概要 1階入口、2階展示室、3階展示室で構成(約2,900㎡)
 - ・ 創建当時の煉瓦壁の雰囲気をお楽しみいただく「歴史を感じる2階」
 - ・ 新しい現代的な壁面の展示室となる「現代的な3階」
 - ・ 順路の途中で、駅を行き交う人々や、復原されたドームの天井を眺められる開放的な回廊
- 展示内容 近現代美術や建築、デザインなどを中心に年5回程度の展覧会を企画(予定)



2階展示室(イメージ)



3階展示室(イメージ)

東京ステーションホテル概要

旧「東京ステーションホテル」は1915年に開業し、これまで多くのお客さまにご愛顧いただきましたが、丸の内駅舎保存・復原工事のため2006年3月に休業いたしました。現在準備を進めている新生「東京ステーションホテル」は、国の重要文化財である駅舎の格調と重厚感、その積み重ねてきた歴史、そして現代のホテルに求められる機能性を備えたユニーク(唯一無二)なホテルとして、新たな歴史を歩み始めます。

○ 名 称 「東京ステーションホテル」(英語名称: THE TOKYO STATION HOTEL)

○ 開業予定 2012年10月3日(水)

○ 運営会社 日本ホテル株式会社(代表取締役社長 澤田 博司)

○ 施設概要

延床面積	20,800㎡
客 室	150室(ツイン86室、ダブル64室)、標準的な客室タイプ 約40㎡(50室)
宴会場	3会場 主宴会場(288㎡)、小宴会場(110㎡、80㎡)
料 飲	フランス料理、日本料理、中国料理、バー、ラウンジ ほか
その他	スパ&フィットネス ほか

○ 主なホテル内装デザイン会社 Richmond International (本社英国)

ホテルの特徴

ホテル館内のインテリアは、ヨーロピアン・クラシックスタイルの駅舎外観との調和を意識しつつ、現代のデザイン要素を取り入れた、居心地のよいデザインを採用しています。



印象的な大理石の床、おもてなしの心を表した暖炉に落ち着いた色調の調度品を配した、洗練されたホテルロビー(イメージ)



高い天井と大きな縦長窓が特徴。駅の喧騒を忘れさせる、落ち着いた造りの英国風ロビーラウンジ(イメージ)



開放感あふれる天井高と大きな窓、そして洗練された調度品に加え、調光照明や高速インターネットなど、機能性と居住性を追及した客室(イメージ)



自然光が天窓から差込む、4階の大空間を利用した宿泊ゲスト専用ラウンジ(イメージ)

2. 東京駅八重洲口開発第2期工事

施設概要

八重洲エリアでは、首都東京の新しい顔、国際都市の拠点として、共同事業者^(※1)と東京駅八重洲口開発計画を進めています。環境に配慮した施策(雨水の植栽への灌水利用、壁面緑化等)を導入した新しい都市空間を創出すべく、工事を進めております。

(※1) 三井不動産株式会社、鹿島八重洲開発株式会社、八重洲インベストメント特定目的会社

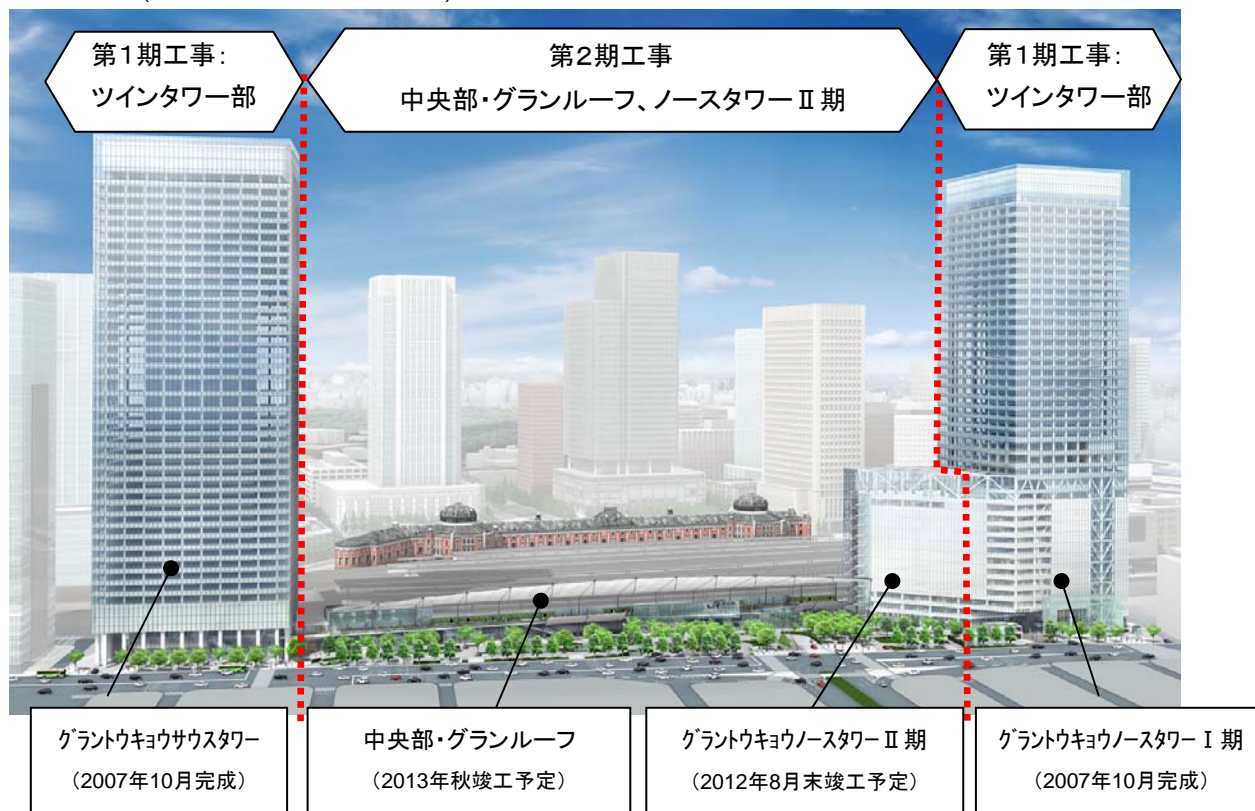
	グラントウキョウ サウスタワー	中央部・グランルーフ	グラントウキョウノースタワー	
			Ⅱ期	Ⅰ期
主要用途	オフィスなど	鉄道営業施設・ 店舗・歩行者デッキ等	百貨店など	オフィス・ 百貨店など
階数	地上 42 階 地下 4 階	地上 4 階 地下 3 階	地上 13 階 地下 3 階	地上 43 階 地下 4 階
延床面積	約 140,000 m ²	約 212,000 m ²		
賃貸面積	オフィス	約 75,000 m ²	—	約 63,000 m ²
	店舗	約 800 m ²	約 2,000 m ²	約 50,000 m ²
駐車場台数	約 250 台	約 50 台	約 160 台	約 60 台

太線範囲が第2期工事部分

店舗運営

中央部・グランルーフの店舗運営は、東京駅エキナカ商業施設「グランスタ」、ノースコート「グランスタダイニング」や、周辺施設「黒堀横丁」「キッチンストリート」等を運営する株式会社鉄道会館(代表取締役社長 野崎 哲夫)が行います。

参考図(東京駅八重洲口開発)



八重洲口駅前広場

八重洲口駅前広場は、かつての外堀の石垣を配して江戸城の名残を持たせつつ、随所に植栽を配した緑豊かな環境広場とします。また、駅前広場の奥行きを拡大して、ターミナル駅としての交通結節機能を強化します。

○ 計画概要

面積：約10,700㎡

バス発着場：13箇所／タクシー乗降場：4箇所／タクシープール：50台



駅前広場全景のイメージ



外堀通りからのイメージ

注) パースは現時点での計画イメージであり、今後変更となる場合がございます。